



イラスト：横浜市立大学 国際教養学部 国際教養学科 1年 美術部所属 阿部 真歩

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 原口 淳

横浜市立大学後援会会員の皆さん、こんにちは。日頃より後援会活動へのご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。また、10月15日(土)に開催しました保護者説明会には金沢八景キャンパス会場へのご来場及びオンライン視聴を含め多数の方々にご参加いただき誠にありがとうございました。当日は、相原学長による横浜市立大学のビジョン、方針に関するメッセージに始まり、コロナ禍における授業の実施状況、キャリア支援、海外留学の現状と今後の方針などについて具体的な情報を共有させていただきました。学生報告を組み込んだことで、学生視点での実感が保護者の方々にもお伝え出来たのではないかでしょうか。

事前アンケートで保護者の方々の疑問点を吸い上げ、出来る限り応えていこうとする大学教職員の姿勢、努力をくみ取って頂けたら幸いです。参加された皆さまのご協力による事後アンケートを分析し、今後より一層情報発信の質向上に務めて参ります。

さて、最近の急激な円安の理由は単に欧米諸国と日本の金利差ではなく、日本政府の過去の政策のツケである膨大な国の借金、日本経済(産業)力の長期低迷と国際比較での地盤沈下が根底にあると思います。私見ではありますが、岐路に立つ日本再建の処方箋は、国際比較で大きく後れている多様性のある社会構築です。人種の坩堝(るつぼ)であるアメリカ的な多様性を求めるのではなく、日本に出来る多様性獲得の道はあると思います。女性の活躍は当然として、私たち一人ひとりがしっかりと自分の意見を持つことです。上意下達や右に倣いではなく、十人十色の意見を交わすことで多様性のある社会はつくれます。“考える力”を学生に求める一方、実は我々大人こそ考えることから逃げてはいないか振り返る必要がありそうです。

令和4年度4月から「会長コラム 春夏秋冬」(年4回)をホームページに掲載しています。是非、ご覧ください。



学長挨拶

学長 相原 道子



横浜市立大学後援会の皆さんには、平素より本学へのご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。皆さまからの学修活動や課外活動への支援、留学や就職関係、さらには新型コロナウィルス感染拡大防止対策など、幅広いご支援により本学が支えられておりましたことに、改めて感謝申し上げます。

コロナ禍も3年目となり、Withコロナ時代に入って、本学も対面授業や課外活動に加え、海外交流を積極的に再開して参りました。具体的には令和3年度後期から長期・短期留学や交換留学プログラム、海外フィールドワークなどを順次再開し、オンライン留学も複数開始しています。8月には3年ぶりに第71回関東甲信越大学体育大会が開催され、本学の学生たちも日頃の練習の成果を大いに発揮いたしました。大学の行事としては、今年は第72回浜大祭（金沢八景キャンパス）が11月5日・6日に、横浜Medical Festival2022（福浦キャンパス）が11月19日・20日に開催されました。また、今年度は学部再編後最初の国際教養学部、国際商学部、理学部の卒業生を送り出す年となります。コロナ禍のなか、頑張って学業に励んだ学生たちを最後まで励ましつつ、しっかりとキャリア支援を行い、社会へ輩出していくことを目指して参ります。

さて、現在本学では、令和5年度から始まる第4期中期計画（2023～2028年度）の策定を進めています。これからも本学の教育が目指すのは、グローバルな視点を備え、データを活用し、様々な社会課題解決にチャレンジできる人材、次世代のリーダーたる資質を備えた人材の育成であり、医学部では知識だけでなく高い倫理観を備えた医師・看護師の育成です。さらに、各学部・研究科では新たな時代に即した大学教育の構築と研究の発展のための仕組みつくりをしています。今年度発足した高等教育推進センターもその一つです。

本学は、2028年に迎える創立100周年にむけての寄附活動を行っています。その寄附金を原資とした4つのプロジェクトを実施し、学生のための環境整備事業として「学生生活・環境改善プロジェクト」を推し進めています。

今後も、教育・研究・医療の各分野でリードしていくことを使命とし、社会の発展に寄与するとともに、市民の誇りとなる大学づくりを進めて参ります。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

後援会副会長挨拶

国際商学部長 大澤 正俊



横浜市立大学後援会の皆さんにおかれましては、本学の教育・研究にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。本年度は、医学部医学科93名（内、女子学生39名）、医学部看護学科114名（同110名）、データサイエンス学部68名（同20名）そして国際総合科学部の再編に伴い誕生し、本年度で4年目（学部完成年次）を迎えた3学部、国際教養学部292名（同223名）、国際商学部289名（同144名）、理学部127名（同49名）の新入生を迎えました。

そして、10月15日には、対面では3年ぶりの保護者説明会が金沢八景キャンパスシーガルホールで開催されました。その模様はオンラインでも同時配信され、多くの皆さん（529名、内277名がオンライン）にご参加いただきました。ありがとうございました。

既に本会の趣旨につきましてはご理解を頂いているかとは思いますが、今一度、会則をご確認頂き、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

なお、会則は、横浜市立大学後援会ホームページ（<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/>）、「後援会について」内または本誌（裏表紙に掲載）でご確認いただけます。

また、11月5日・6日には、こちらも3年ぶりとなる浜大祭が開催されました。本学でも、学生の健康面を最優先としつつもWithコロナに舵を切り、学習面だけでなく、学生活動（部活動・サークル活動など）面でも制限の緩和を慎重に行ってています。これに伴い、海外留学などの海外渡航学生も徐々に増加傾向にあります。

2023年度からは、オンライン授業の方が対面授業よりも学習効果がある一部科目を除き、原則、対面授業として準備を進めています。これに伴い、学生の学習・研究活動もより活発化し、著しい成長を見せてくれると確信しています。

横浜市立大学は、常に新しい教育・研究の手法を取り入れ、進化して参ります。これからも、学生たちに皆さまの力強いエールを送って頂き、前に進む勇気を与えて頂けますと幸いです。

学習者本位の教育を目指して～学修管理システム（LMS）の導入～

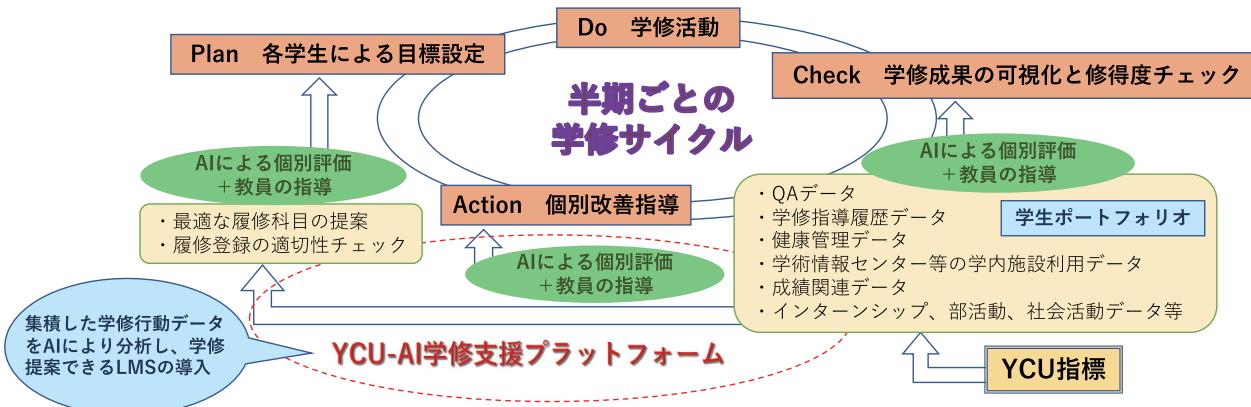
令和4年4月から本学では、「YCU-Board」と名付けた新システム（LMS：学修管理システム）を全学で導入しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度の前期は全講義をオンライン授業で実施いたしましたが、学修支援のツールとして様々なものが学内で混在していたこと、既存のシステム環境では学生の学びを支援する取り組みに限界感が見えてきたことが導入のきっかけです。

具体的には、学生約5000人、教員約1000人を対象とし、年間7000を数えるオンライン授業の実施に加え、授業に関する情報管理や蓄積される大量のデータを分析する体制を整えます。導入後、これまで各システムに個別にログインをして資料や情報の収集、申請手続きなどを行っていましたが、一つにほぼ集約されたため、使い勝手が向上しました。

また、新たな機能として「ポートフォリオ機能」というものが追加されました。その中でも目標設定・振り返り機能は前期・後期の学期始めに5項目からなる学習目標を学生が立て、学期終了後に習熟状況の振り返りを行い、教員にコメントを書き込んでもらうことにより、自身の学修状況を確認できる機能です。

ここでActionを踏まえ、新学期では一段階ステージをあげた目標設定を行い、学修支援におけるフォローを継続的にできる仕組みを整えました。

Taylor-made Learning Assistance Platform (TMLAP) : data-driven 学修の質向上



また、学生一人ひとりの成績だけでなく、課外活動や留学、資格取得履歴の管理のほか、習得できる能力を履修科目毎に数値化(YCU指標)し、レーダーチャートの形で可視化を図っています。

<論理的思考>

修得した専門知識を、論理的な思考と柔軟な発想によって応用することができる。

<情報リテラシー>

修得した専門知識を、論理的な思考と柔軟な発想によって応用することができる。

<国際的視野>

外国の言語と文化を学習・修得し、世界のさまざまな国・地域の人びとと意思疎通することができる。

<資料作成力、プレゼンテーション力>

・学修した内容を言語や表を用いてわかりやすく表現することができる。
・学修で得た情報を整理し、わかりやすく説明することができる。

<地域貢献>

グローバルな社会の一員であり、かつ地域社会の一員であることの自覚をもち、自らの知識・技能を活かして、(他者と協調して)社会の発展のために寄与することができる。

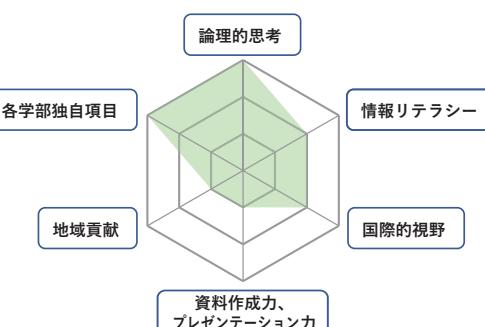
<各学部独自項目>

国際教養学部の各クラスターで身に着けるべき専門性を示します。国際社会についての専門的理解、国際文化についての専門的理解、人間科学についての専門的理解、都市・地域に関する応用的分野の専門的理解が含まれます。

国際商学部が身につけるべき専門性を示します。経営学、会計学、経済学、法学に関する専門的理解、あるいは、複数の学問領域の融合的理解が含まれます。

理学部が身につけるべき専門性を示します。物質科学、生命環境、生命医科学に関する専門的理解、あるいは理学的素養が含まれます。

データサイエンス学部が身につけるべき専門性を示します。社会課題の数理的表現力、統計数理的知識・技能、情報処理技術の活用力、社会展開力が含まれます。



色々な切り口から学生の傾向や学修活動とキャリア意識の変遷を把握し、各学生に最適な学修リコメンドの実現を目指しています。今後も学修成果の可視化を図り、質の向上に寄与できるDX基盤の運用を進めていきたいと思います。

YCU TOPICS・定時総会報告

横浜市立大学病院 150 周年記念イベントの開催報告について

横浜市立大学の医学部と 2 つの附属病院は、市民の寄附や支援により、1871 年 4 月 20 日、「横浜仮病院」として元弁天通（現中区北仲通）に開院したところから、その歴史が始まりました。

その後、「十全医院」となり、場所や名称を変えながら、現在の医学部と附属 2 病院に発展してきました。

2021 年は横浜仮病院から数えて 150 周年という記念の年であり、記念イベントを開催予定でしたが、コロナ禍により 1 年延期し、本年 10 月 1 日（土）に金沢公会堂で開催しました。

※ 詳細についてはホームページをご覧ください。

〔横浜市立大学病院 150 周年事業特設 Web サイト〕

⇒ <http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~anniversary/hospital-150th/>



記念イベントは第一部が記念式典、第二部がパネルディスカッションという構成で開催されました。

当日は、山中横浜市長をはじめ、清水横浜市会議長、水野横浜市医師会会长など多数の方々のご臨席を賜りました。さらに横浜市会議員、医学部後援会、卒業生、横浜の医療関係者など約 200 名にお越しいただいたほか、オンラインでも約 300 名の方々にご覧いただきました。

第一部では、相原学長の挨拶から始まり、ご来賓の方々から祝福のお言葉をいただいたほか、菅元内閣総理大臣などの方々からの祝電が披露されました。

その後、150 周年のあゆみを紹介する動画を上映し、横浜仮病院の設立者である早矢仕有的氏や、横浜開港の歴史において横浜市立大学病院が果たしてきた役割が紹介されました。上映後には早矢仕有的 顕彰会会长の大野泰正様より、早矢仕有的が病院を設立した 150 年前の思いを受け継ぎ、現在も海外との窓口となる横浜で、しっかりと対応していることは、日本の未来の安全安心につながっているとのご挨拶を頂き、会場は温かい拍手で満ちました。

（当日上映した動画はこちらからご覧いただけます。

⇒ <http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~anniversary/hospital-150th/whatsnew/movie01.html>



第二部では、横浜および本学に関わりの深いゲストをお迎えし、記念対談を行いました。

対談者として、株式会社ディー・エヌ・エー代表取締役会長の南場智子氏、スタンフォード大学医学部教授の中内啓光氏、横浜市立大学先端医科学研究センター特別教授の武部貴則氏が登壇し、後藤隆久附属病院長がファシリテーターを務めました。

対談ではこれらの医療、そして横浜市立大学病院が果たすべき役割について議論が交わされ、登壇者の皆さんから伝わってくる活気溢れた雰囲気に包まれる中、イベントは幕を閉じました。

令和 4 年度定時総会（書面決議）の結果について

令和 4 年度横浜市立大学後援会定時総会は、最近において新型コロナウイルスの感染者数が増加していること、およびコロナ禍で書面決議を採用したことにより多くの会員の皆さまからご意見をいただけたことから、令和 4 年度も引き続き書面による決議とすることにいたしました。

令和 4 年 8 月 10 日締切りで会員 3,902 名のうち 430 名（回収率 11.0%）から回答票がご提出され、全議案について承認されましたのでご報告いたします。また、今回の議決に際し、会員の皆さまから後援会に対するご意見をいただきました。誠にありがとうございました。書面決議結果およびご意見への回答を含めた今後の取り組みにつきましては、ホームページに掲載の NEWS LETTER 2022 一定時総会（書面決議）報告一でご報告させていただいておりますのでご覧ください。



保護者説明会報告

令和4年度後援会主催保護者説明会の開催報告について

保護者説明会は本学の教育・研究や学生支援の取り組みについて紹介することで、学生が安心して学べる大学として保護者からの信頼を深めることを目的に、平成24年度から開催しています。令和4年度は初めての試みとして、より多くの方に参加していただけるよう、参加者が対面とオンラインを選択できるハイブリッド形式で開催しました。

至らぬ点も多々ございましたが、ご参加、ご協力いただき、誠にありがとうございました。



■開催概要

- (1) 日程：令和4年10月15日(土) 13時～17時
(2) 会場：横浜市立大学シーガルセンター(オンラインはZoomのウェビナー機能を使用)
(3) プログラム

時間	内容	場所	開催形式
13:00～13:05	後援会会長挨拶	シーガルセンター3F シーガルホール	講演会形式 対面 または オンライン (Zoom)
13:05～13:15	学長挨拶		
13:15～13:45	基調講演 講師：吉永 崇史キャリア支援センター長 兼 国際商学部教授 「withコロナ時代の授業と就職支援の在り方について」		
13:45～14:15	授業の実施状況について ①現在の授業形態、内容について ②学生の報告		
14:15～14:25	休憩(10分)		
14:25～14:55	キャリア支援プログラムについて ①プログラムの概要説明 ②海外インターンシップ参加学生の報告		
14:55～15:25	海外留学支援について ①海外留学支援の概要および今後の動向 ②留学参加学生の報告		
15:25～15:45	事務連絡(事前質問への回答)		
16:00～17:00	個別相談 相談員：各学部教員 ※相談時間は1名10分で1学部6名まで	シーガルセンター2F 学生会議室	面談形式 対面

■参加人数

講演 対面 158組(252名) オンライン 277名
個別相談 18組

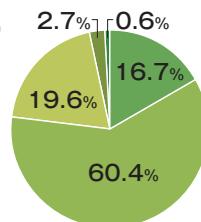
■アンケート結果(回答数337名)

学部・研究科名	人数
国際教養学部	129
国際商学部	109
理学部	40
データーサイエンス学部	22
国際総合科学部	1
医学部	35
生命ナノシステム科学研究科	1

学年	人数
1年	185
2年	83
3年	55
4年	13
大学院	1

■保護者説明会全体について(回答数336名)

●大変満足	56	16.7%
●満足	203	60.4%
●普通	66	19.6%
●どちらかといえば不満	9	2.7%
●不満	2	0.6%



修学支援(学修サポート)

本学では、教員が担任となり学修生活サポートを行う担任制を敷き、授業の学修支援や英語学修の支援など学生がスムーズに学修を進められるようにしています。

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/info/support/education.html>



目的別お問い合わせ先一覧

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/inquiry.html>



学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学修・研究にかかる様々な情報やサービスを提供し、学生の多様な学修スタイルをサポートしています。

＜所蔵資料＞

図書: 約70万冊 雑誌: 約1万4千タイトル 電子ジャーナル: 約2万2千タイトル

＜ご利用時間＞

通常開館	平日（授業期）	9:00 ~ 21:00
土日開館	土曜・日曜（日は試験期のみ）	9:00 ~ 17:00
短縮開館	休業中の平日など	9:00 ~ 17:00
休館日	祝日、年末年始ほか	-

昨年度に引き続き、有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただきました。



新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、学生の学修・研究をサポートするため、LINEなどを活用したオンラインレファレンスを実施しています。「学術情報センターの使い方」「レポート作成の方法」などの各種ガイド資料・動画のホームページ掲載、電子ブックの整備などを進め、「来館しなくても使える図書館」として学生の学修・研究を支援しています。

◇後援会からの図書寄贈: 後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境を一層、充実させています。寄贈図書の中でも資格勉強や就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。そのほか、学生の日常生活を豊かにする料理本や小説など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生生活にも大いに役立っています。

◇学術情報センター募金（図書館支援）: 学術資料の充実によって、最先端の研究と将来性に満ちた学生を育成し、継続的な社会への還元が可能となるよう、皆さま方からご支援を募っております。お陰様で、8月末までの間に約300万円のご寄附が寄せられました。ご寄附いただいた皆さま方に厚く御礼申し上げます。



ゼミ活動

国際商学部 3年（柴田典子ゼミ） 伊林 彩里・藤田 佳紗希・藤田 ののか・徳増 伶太

国際商学部の柴田ゼミでは、マーケティングの理論を学ぶだけでなく、応用し実践的な学びに活かしています。その活動の一つが、昨年末から行っている、横浜中華街をまとめる横浜中華街発展会協同組合（以下、「発展会」という。）との連携活動です。この活動は学部・専門を超えた4ゼミが各自の研究を活かし、持続的で時代に即した新しい横浜中華街を目指し尽力しています。黒木ゼミ（公会計）は、発展会のありかたと会員を巻き込んだプロジェクト振興を目指す組織戦略に、陳ゼミ（社会福祉）は、住む・働く・育てるなどの生活課題に、有馬ゼミ（観光学）は観光・地理学視点から人の流れに着目しています。

私たち柴田ゼミはファンづくりを目標に、発展会とのミーティングやチーム内の話合いを重ねながらプランディング視点での活動に日々励んでいます。横浜中華街で街行く人々にインタビューをした際には、断られてばかりで苦戦しました。そのほかに、アンケート



データの統計的な分析や他社事例収集も行った上で、現在は発展会のSNSを改善し、中華街の文化である「打包（ダーパオ）= 残した料理の持ち帰り」を推進する取り組みを進めています。

この活動を通じ、頭では分かっていたつもりだったマーケティングの理論を実践に活かすことの難しさを知り、リスクや費用対効果を考慮する重要性を体感しました。この経験を活かし、将来は社会において論理的かつ効果的な戦略を提案したいです。

なお、この活動についてインナーハウスというコンテストに出場・報告し、現在約120チーム中の上位10チームに選ばれ、11月に行われる本選での最優秀賞を目指しています。

今後も、理論と実践の両面から深い学びを続けていきたいと思います。後援会の皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。

国内学会発表

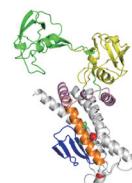
生命医科学研究科 生命医科学専攻 令和3年度修了 今泉 友希

2021年11月19日から21日に札幌市で開催された令和3年度日本結晶学会年会に参加し、「膜内プロテアーゼRsePのX線結晶構造解析」という演題でポスター発表を行いました。

本学会は、物理・化学・生物学・鉱物学など幅広い学問分野の専門家が、最新の技術や研究成果について議論を行う学際的な学会です。今回は、シンポジウムは対面とオンライン、ポスター発表や口頭発表はオンラインというハイブリッド形式での開催でした。

私は、膜内タンパク質切断という細胞の恒常性の維持やシグナル伝達を司る現象で中心的な役割を担っているRsePの構造解析について発表しました。病原菌のRsePは薬剤耐性にも関わるため、細菌感染症の治療薬の標的にもなると期待されています。薬の設計には、タンパク質のかたち（立体構造）の情報が必要ですが、RsePが発見されて以降20年近く、どのようなかたちをしているか全く分かっていませんでした。そこで、独自の技術で純粋で安定なタンパク質を作り、結晶化方法も工夫することで、X線結晶構造解析で立体構造を決定することに成功しました。発表では、結晶化実験の詳細や立体構造から推定された反応メカニズムについて紹介しました。

コロナ禍の影響を受け、オンラインでのポスター発表となりましたが、構造解析の専門家の方々から多くの助言をいただくことができました。また、今回の学会参加での経験をもとに、研究内容を学術論文として発表することもできました。後援会の皆さまからのご支援のもと、有意義な経験を積むことができましたことに、卒業生を代表して心より感謝申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



RsePの結晶とX線結晶構造解析で決定した立体構造

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外での様々な学びや実践の場を提供しています。後援会からのご支援を受け、海外で様々な体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

令和4年度も学生からの多種多様なニーズに答えるべく、キール大学(イギリス)、フライブルク大学(ドイツ)などの大学と交換留学を中心に新たなプログラムを増やしました。

R4年度 交換留学プログラム		
募集枠 (予定)	国	プログラム名
1	イギリス	ド・モントフォート大学
2	イギリス	リーズ・トリニティ大学
1	イギリス	キール大学(新規)
5	イタリア	ベネチア大学
2	フランス	リヨン第3大学
4	ドイツ	ゲーテ大学(経済経営学部)
2	ドイツ	ゲーテ大学(社会科学部)
2	ドイツ	フライブルク大学(新規)
3	オーストリア	ウィーン大学
1	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学 サンルイ・ブリュッセル校
2	スペイン	ナバラ大学
2	スペイン	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学
1	スペイン	マドリード・コンプルテンセ大学
2	スウェーデン	オレブロ大学
1	スウェーデン	ハルムスタード大学
2	フィンランド	オウル大学
1	ハンガリー	エトヴェシュローランド大学
2	ポーランド	ヤグワーレ大学
2	トルコ	中東工科大学
2	米国	ウェーバー州立大学
1	米国	サンディエゴ州立大学
1	米国	ニューヨーク州立大学 ストニーブルック校
1	米国	サウスカロライナ大学エイキン校
2	米国	セントクラウド州立大学
3	カナダ	モントリオール大学
2	カナダ	メモリアル大学
2	カナダ	ヒューロン大学
1	中国	上海師範大学
2	中国	北京師範大学(漢語文化学院)
2	台湾	東海大学
1	台湾	国立政治大学
2	台湾	国立台湾科技大学
2	韓国	仁川大学校
3	韓国	高麗大学校(世宗キャンパス)
1	韓国	淑明女子大学校
2	タイ	タマサート大学
1	タイ	チェンマイ大学
1	マレーシア	マレーシア科学大学

第2クオータープログラム・ 夏季短期プログラム 参加状況					
お 勧 め	プログラム・留学先	期間	合計人数		
			2Q	夏季	合計
英 語 学 研 修	ピクトリア大学【カナダ】 (国際商学部おすすめ プログラム)	7/2 - 7/28(3週間)	6	6	6
		8/2 - 8/25(3週間)	13	13	13
	ドモントフォート大学【英国】	7/15 - 9/11(8週間)	6	6	6
		8/12 - 9/11(4週間)	5	6	11
	ニューヨーク州立大学 ストニーブルック校【米国】	7/2-8/13(5週間)	2	2	2
		6/25-8/8(6週間)	2	2	2
	サンディエゴ州立大学【米国】	8/14-9/12(4週間)	11	9	20
		6/25-9/12(10週間)	3	3	3
	ピクトリア大学 英語+文化 【カナダ】	7/3 - 7/31(4週間)	12	12	12
		7/10 - 8/21(6週間)	7	7	7
		8/1 - 8/29(4週間)	19	19	19
		8/7 - 8/29(3週間)	7	7	7
初 修 外 国 語	ピクトリア大学 英語集中 【カナダ】	6/21-8/30(9週間)	11	11	11
		8/2-8/26(4週間)	1	1	1
	スペイン語: サンティアゴ・デ・ コンポステラ大学 【スペイン】	6/30-7/31(4週間)	1	1	1
		6/30-8/28(8週間)	1	1	1
		7/14-8/28(6週間)	1	1	1
	韓国語: 延世大学校【韓国】	6/23-7/22(4週間)	1	1	1
		7/2-8/18(6週間)	1	1	1
	学部授業等	サマースクール: ニューヨーク 州立大学ストニーブルック校	4	4	4
		7/2-7/28(3週間)	4	4	4
		サマースクール: 延世大学校	6/23 - 8/5(6週間)	2	2

海外インターンシップ

○春季(R4.2～3月)※

国・都市名	参加 学生数	実習先企業
中国・上海	3	上海良図商務諮詢有限公司 (LT上海)
カンボジア、ベトナム、 マレーシア	4	イオン株式会社

○夏季(R4.7～9月)※

国・都市名	参加 学生数	実習先企業
カンボジア	1	S.E.A.T.S Inc.
ベトナム	1	イオン株式会社

※新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い海外渡航が制限されたため、オンライン形式で実施しました。

コロナ禍の留学について

新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の事態は、学生の留学に大きな影響を与えました。本学では令和2年度は渡航プログラムを中止しましたが、オンラインプログラムを実施することで国際体験の機会を創出しました。

令和3年度になり、文部科学省より留学再開に関する通知が発出されたことを受け、渡航先大学への感染防止対策などのヒアリングや、危機管理会社との連携などの安全対策を実施し、交換留学などの長期プログラムを再開し、25名の学生が渡航しました。

さらに、今年度は56名が長期留学で渡航を開始するとともに、短期留学を再開し130名を超える学生が渡航しました。特に、今年度から開始した第2クオータープログラムは、必須科目を設置していない2年次の第2クオーター期間（前期後半）を利用して渡航する留学プログラムで、多数の学生が参加しました。学生からの留学報告には、現地学生との交流による新たな発見、日本とは異なる生活環境での驚きが生き生きと綴られており、コロナ禍という制約下にありながらも充実した学びを得られている様子が伺えます。

今後は、提携校との連携深化や派遣枠数の拡大に取り組みつつ、本学ならではの国際交流・体験機会の提供に努めていきます。

交換留学プログラム

オレブロ大学（スウェーデン）

国際商学部 国際商学科 4年 須田 幸太郎



友達とストックホルム観光した際の写真

約1年間のオレブロ大学への留学を経て、日本では経験できないことを実際に経験することができたと感じます。学術的な観点から言えば、あれほど多国籍の留学生と学ぶことはこれまでになく、もちろん日本語は一言も喋ることができないため英語でコミュニケーションをとっていました。そのおかげで英語力はスピーチング力、リスニング力をディスカッションの中で培うことができ、そのほかのリーディングリストを読みレポートを作成することにより、リーディングとライティング能力も育成することができたと思います。



後期初めでのフラットメイトとのインターナショナルディナー

授業は実践的なものがほとんどで、実際に存在する企業や事例を用いて学習を進めたため、理論の応用技術を培うことができました。また、個人的には実用可能性を常に視野に入れて考えることができたため、これまでのような実現不可能なアイデアではなく、より実践的なアイデアを生み出すことも可能になりました。人材系の授業では自国の文化や民族、国民性などを分析しそれをディスカッションすることで全く異なる考え方や価値観を知ることができたのは面白かったです。授業内だけでなく、普段の日常生活からもこの違いを感じることができたため、日本の文化とは異なる文化が多いヨーロッパ圏だからこそ魅力であると思います。



夏のフェスティバル後に公園の丘で取った集合写真

また、生活面ではこの留学生活を経験することによって自立することができるようになったと感じます。日本では実家生活のため3食作ることなどは全くなかつたですが、スウェーデンでは、買い出し、料理、洗濯、掃除などの家事全般を自分で行う必要があり、それも1年間上手くこなすことができました。さらに、フリータイムが家事に費やされる分、自分のスケジュール管理をより徹底することもできたと感じます。小さなことではありますが、料理が全くできなかつた自分の過去を考えると大きな第一歩だと思います。

スウェーデンは留学先としてはまだマイナーな場所であるため、日本人は留学生を除けば町で全く目にしません。そのため自然と日本以外のヨーロッパ圏からきた留学生と触れ合う機会が多く、密かに目標としていた友達100人をつくることは容易に達成できました。みんな個性があり、優しく、楽しい人たちばかりでいい友達に恵まれました。留学に行く前は不安などもありましたが、行く決断をした自分を褒め称えたいほど楽しく充実した留学生活でした。

本留学の遂行にあたり、横浜市立大学後援会による助成を頂きました。ここに感謝申し上げます。



マイナス20度のスウェーデン北部で過ごしたクリスマスの写真

セメスター留学プログラム

ブリティッシュコロンビア大学（カナダ） 国際教養学部 国際教養学科 教養学系 3年 林 依灵

私はカナダの多文化共生と移民のアイデンティティーについて学ぶためカナダのブリティッシュコロンビア大学に留学を決めました。留学を始めてあつという間に数週間が経ちました。生活面で言えば、カナダの生活はとてもスローペースなものです。人懐っこく戯れにくるリストとの出会いなど、小さな美しさが溢れています。青い空、植物の香り、きれいな落ち葉を見つけては写真に記録するのが好きです。この心地よさを満喫しています。社会人になる前に自分にとって何が必要で、何が欲しいのかを考えるにはこのような時間と空間が重要だと思いました。



学業面では日本の大学と比較すると、クイズよりもディスカッションが重視されている印象を受けました。ブリティッシュコロンビア大学の学生は本当に些細なことでも自分の意見を発信するのに対し、私はいわゆる正解や完璧な答えを追求し続けてしまい、重点を置いていることが異なっていると感じています。ここでは、さまざまなバックグラウンドの人が集まっているので、多様な価値観や考え方を持った人たちと交流することができます。そのような多様性に満ちた環境の中で、どのようにコミュニケーションをとり、どのように情報を吸収していくかが、これからの私の課題です。ブリティッシュコロンビア大学での授業を通して、コミュニケーション能力、クリティカルシンキング能力を高めていきたいと思っています。

カナダに来てわずか数週間ですが、いくつかの考え方がすでに変化しました。特に大きな価値観の変化は多文化共生についてです。以前は、多文化共生とは必ず全員が一緒に溶け込まなければならないものと思っていたが、そうではなく、全員が自分の国のグループを持ちながら、同時に全員が他のグループと自信を持って平等にコミュニケーションをとれるこののではないかと思うようになりました。留学期間中は、常に自分が前から思う多文化共生のあり方に疑問を持ち考え続けていきたいです。ブリティッシュコロンビア大学は世界各地から学生を集め、移民と移民二世も多く在籍しています。その環境でそれぞれの多様性を保ちながら交流するには、居場所確保、文化交流プラットフォームの提供以外にはどんなサポートが必要なのかをこれからの留学生活で探究したいです。

中国には「万巻の本を読むより、万里の道を歩く方がいい」という言葉があり、視野を広げ、自らさまざまな経験することが大事だと思っています。語学だけでなく、他国の文化を通じて自分を深く理解し、グローバルな感覚を養うと同時に、自立できることを自らに期待しています。最後に新たな可能性を与えてくれた後援会の皆さんに感謝申し上げます。皆さんの応援に応えられるようこれからの留学生活を頑張っていきたいです。

セメスター留学プログラム：
世界のトップ 100 に入る大学をはじめ、北米、英国の大学から留学先や期間を選択して長期留学ができるプログラムです。

海外フィールドワーク支援プログラム



ウプサラ市役所前での集合写真

国際教養学部 国際教養学科 都市学系 3年 入野 永捺

私は、所属する環境政策のゼミを通じて、現地の環境問題に対する政策や取り組みの視察を行う目的でスウェーデンに渡航しました。ウプサラ大学や市役所、バイオガス発電所などをはじめ、環境問題に対するアクションを先進的に行っている機関を訪問し、専門家の方々とディスカッションを行ったり、私たちの研究成果を発表したりしました。今でも忘れないほど、

そこで頂いた言葉は力強くて温かく、背中を押してくれるものばかりでした。また、日本では見られない画期的なゴミ収集の現場や、現地のスーパーマーケットで当たり前のように取り組まれているデポジット制度、選挙演説をする政治家に熱心に質問する学生たちの集まりなどを日常生活で目の当たりにしました。約 20 年間日本で生きてきた私にとって、スウェーデンの環境や教育、政治などに対する姿勢に感銘を受ける日々でした。

このスウェーデン研修では、環境政策や技術が社会でどのように運用され、そこで人々はどのように活動しているのかを間近に感じることができました。しかし、それだけではなく、日本の大学生である私が、これから社会に対して何を貢献することができるだろうと考えるきっかけとなりました。

今後は、スウェーデンでの学びを活かしながら、日本では社会問題にどう対応する必要があるかを考えていきたいと思っています。この体験が私の中に新しい夢や目標を生んでくれました。渡航が難しい状況下でしたが、このような貴重な経験をさせて頂きました。

ご支援頂いた皆さんには、深く感謝いたします。ありがとうございました。



リサイクルセンター見学での集合写真

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式



伊藤雅俊奨学生制度は、伊藤雅俊氏（本学卒業生／株式会社セブン&アイ・ホールディングス名誉会長）の寄附をもとに創設した制度です。寄附者の意向に沿い、前年度に極めて優秀な成績を収めた国際商学部の学生に授与されます。

また、成績優秀者特待生制度は、学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学修意欲の向上を期待して創設した制度です。後援会からは式典の生花をお贈りしています。



令和4年度は、3年ぶりに金沢八景キャンパスと福浦キャンパス合同の表彰式を9月21日（水）に執り行いました。

式典では、奨学生・特待生への表彰状および目録の授与のほか、代表学生による学修成果の発表を行いました。

受賞した学生だけでなく、ご家族の方、指導教員約80名が出席し、その栄誉を讃えました。

YCU Best Student Award・YCU Student Award

本学の名誉を高め、学内の士気を高揚した学生及び学生団体に対して贈られる賞です。学術、芸術、社会貢献、スポーツ及び文化活動などの分野において優れた業績をあげた学生の功労を称えることにより、学生活動の活性化を目的としています。後援会からは受賞者に副賞をお渡ししています。

2021年は応募総数29件の中から、分野別（学術研究分野及び課外活動・社会活動分野）に学内での厳正なる審査の結果、YCU Best Student Awardには2件、YCU Student Awardには7件が選出されました。

表彰式は2022年3月22日（火）に金沢八景キャンパスシーガルホールにて開催しました。

YCU Best Student Award（写真上）

【学術研究分野】 坂本 和香さん（生命医科学研究科 博士前期課程1年）

米学術誌「Analytical Chemistry」に筆頭著者としての成果が掲載され、また、第69回質量分析総合討論会で「ベストプレゼンテーション賞優秀賞」を受賞

【課外活動・社会活動分野】 学生ボランティア団体 one by ONE

入院中の患児へのオンライン学習支援をはじめ、入院中の患児とそのご家族向けのイベント開催や病院への本の寄贈を実施



YCU Student Award（写真下）

学術研究分野からは、「Scientific Reports」誌に筆頭著者として論文が掲載された高熊 朗さん（医学部6年）、日本学生経済ゼミナール関東部会インナー大会でグランプリ（最優秀賞）を受賞した柴田典子ゼミ17期生の皆さん、米学術誌「The American Journal of Sports Medicine」(IF:6.203)に筆頭著者として論文が掲載された安部 晃生さん（医学研究科 博士課程3年）、第50回結晶成長国内会議で講演奨励賞を受賞した阿部 満理奈さん（生命ナノシステム科学研究科 博士後期課程2年）が選出されました。

また、課外活動・社会活動分野からは、「よこはまアイデアチャレンジ2020」最優秀賞などを受賞した株式会社 StockBase のお二人（在学生/起業）、第31回ブルクハルト国際音楽コンクール4位に入賞した鈴木 淑一さん（国際教養学部1年）、全日本学生ボードセーリング選手権5位に入賞した太田 華代さん（国際総合科学部4年）が選出されました。

後援会の支援でパラソルを5つ設置



コロナ禍での行動制限緩和に伴い登校する学生の人数が増えてきた中、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、各教室やホールの入室人数制限などにより、学内における「学生の居場所」が不足したため、代替場所の確保が課題となっていました。

学内には、屋外の「学生の居場所」として木製のテーブル・ベンチを数か所に設置していましたが、日差しがきつい日中には利用がされていない状況でした。そこで、そのテーブル・ベンチにパラソルを追加設置し、日差しの強い日中でも利用できるようにしました。

第72回 浜大祭

浜大祭 実行委員長 是枝 美咲

第72回浜大祭は、11月5日(土)・6日(日)に金沢八景キャンパスにて行われました。来場登録による入場や食事エリアの制限など、感染症対策を講じての開催となりましたが、多くの皆さんにご来場いただきました。後援会の皆さまの多大なるご支援のおかげで、無事に3年ぶりの浜大祭の幕をおろすことができました。心より感謝申し上げます。

今年度の浜大祭は、2年連続の中止を経て、キャンパス内にとらわれない、地域性に富んだコンテンツをお届けするものとして再興しました。今回のテーマは「Revival! Regional! Festival!」。コロナ禍で薄れていた学生と地域とのつながりを再び構築し、学生に金沢八景キャンパス周辺の魅力を知ってもらおうと、さまざまな企画を考えました。また、離れた場所にいる方々にも浜大祭を楽しんでもらうためにオンライン配信を行ったり、ミス・ミスター・コンテストをお休みし、その意義やあり方を考えるパネルディスカッションを行ったりと、新しいコンテンツにも挑戦しました。

今後も大学や金沢八景のさまざまな景色をお見せできるよう、委員一同頑張って参ります。



第71回 関東甲信越大学体育大会

運動部連合会委員長 駒田 紳之介

運動部連合会は、横浜市立大学の運動部全35団体を統べる組織です。全部活より1名ずつ選出された委員からなり、運動部の部活間での調整や交流の強化を目的に存立しています。

6月には、3年ぶりの開催となりました都立大学との交流戦において、7競技が対戦し、4勝3敗で見事勝利を収めることができました。

また、8月には、こちらも3年ぶりの開催となった関東甲信越大学体育大会に、大学として11競技が参加しました。大会前には、結団式を執り行い、相原学長や篠崎体育会長から激励のお言葉をいただきました。それらを胸に挑んだ本大会では、硬式野球部の準優勝や男子バスケットボール部3位など、数多くの入賞を果たすことができました。

このように、県外に出向いて活動できるようになったのは、新型コロナウイルス感染症流行中の活動が難しい状況下でも、変わらずご支援いただいた後援会の皆さまのおかげです。今後は上記のように、活動の幅が増えていくかと思います。後援会の皆さまからの応援、今後ともよろしくお願ひいたします。それらにお応えできるよう、運動部一同、より一層精進して参ります。

クラブ活動

■海外遠征（オリエンテーリング部）

オリエンテーリング部 美濃部 駿

この度、後援会の皆さまのご支援の下、7月にポルトガルで開催されたジュニア世界オリエンテーリング選手権に出場して参りました。多大なるご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

オリエンテーリングは北欧で生まれた、地図に示されたチェックポイントを指定の順序で通過しフィニッシュまでの所要時間を競う野外スポーツです。チェックポイント間は自由にルートを選択できるため、レースを走り抜く体力とともに、より速いルートを見つける思考力も求められます。その舞台は山林から街中までさまざま、本大会では人口5000人ほどの街で個人戦が1種目、代表チームの仲間とバトンを繋ぐ団体戦が2種目開催されました。

今回の遠征は海外でオリエンテーリングに取り組める貴重な機会であり、同年代の本場の選手たちが高いレベルで争う姿には大きな刺激を受けました。また、競技の場以外でも海外の選手や現地の方との交流を通して、国際的な視野を養うことができたと感じております。この経験を活かし、引き続き高い目標を持って仲間たちとともに切磋琢磨して参ります。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



■学生団体TEHs

学生団体TEHs 辻井 未玖、宍戸 明日香

学生団体TEHsは、横浜市立大学金沢八景キャンパスの生協食堂で、国内の大学では初めてとなるMSC／ASC CoC認証*に対応した「サステナブル・シーフード」(以下、「サスシー」という。)を使用したメニューの提供を開始しました。

月に1回、1週間の期間限定で提供しており、海に関する問題の認知向上に繋がり、実際にメニューを食べることで海に関する問題の解決に貢献できます。

提供したメニューの中には完売するものもあり、実際に食べた学生や職員の方にもご好評の声をいただいております。

また、国内初の事業ということで、日本テレビや神奈川新聞など多くのメディアに取り上げられています。



この度サスシープロジェクトが実現できたのは、後援会の皆さまをはじめ、多くの方の支援があったからです。私たち学生の強い想いに応えていただきまして、本当にありがとうございました。

これから更にこのプロジェクトを継続・発展させていきたいと考えております。これからもご支援のほどよろしくお願ひいたします。

*MSC／ASC CoC認証: 加工、流通の過程で認証水産物と非認証水産物の混入を防ぎ、適切に管理することを目的とした認証。

■硬式野球部

硬式野球部 植川 健吾

横浜市立大学硬式野球部は全国でも活躍した歴史があります。全日本大学野球選手権大会において国公立大学で通算3勝以上しているのは長い歴史の中で横浜市立大学だけです。そのような素晴らしい歴史を持つ部で活動できていることに誇りを持っています。また、誇りに思うだけでなく、我々がまた素晴らしい歴史をつくっていけるように日々精進しております。先日行われた関東甲信越大学体育大会では準優勝の成績を収めることができました。部員が多い部活ではありませんが、一人ひとりが力を出し合って協力して少しずつよいチームへと成長しています。

日本において野球は国を代表するものだと思います。東京オリンピックで日本は金メダルを獲得しました。しかし、野球は道具などが多く、サポートしてくださる方々がいないと思う存分プレーできないスポーツです。我々が日々の練習に打ち込み、大会やリーグ戦を行うことができているのは後援会のご支援のおかげです。感謝申し上げます。今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



『YCU ボランティア・スタートアップ補助金』制度

学生団体がボランティアや社会・地域貢献活動を始めるときの支援として、ボランティア支援室が令和2年度から開始し、後援会から補助金をいただいて交付しています。

社会課題に取り組むことを通じて、学生の自主自律の精神を育成し、社会と大学を活性化することを目的としています。

■令和3年度 採択団体 「YCU病院ボランティアグループ～折り紙プロジェクト～」

「YCU 病院ボランティアグループ」は、病院でのボランティアを希望するさまざまな学部・学年のメンバーが集まり、「コロナ禍の病院のためにできることは?」を課題に、2020年末に活動を開始しました。コロナ禍収束後、院内ボランティアに関わることを最終目的にしています。

令和3年度に実施した「折り紙プロジェクト」では、手作りした折り方説明書、折り紙、アンケートを入れたキットを、横浜市立大学附属市民総合医療センターの各病棟デイルームに設置し、面会制限などにより寂しい思いをしている患者さん、時間を持て余している患者さんに、折り紙を楽しんでいただきました。作品は箱に入れていただき回収し、メンバーが一枚一枚写真撮影をして「フォトモザイクアート」を完成させました。



この活動では、折り紙や、それらを入れる袋の購入に補助金を充てさせていただきました。またキットの搬入や回収には病院スタッフのご協力をいただきながら、企画を進めることができました。多くの皆さまのご支援をいただけたこと、大変感謝しております。アンケートでは患者さんからの「制作を楽しめ、気晴らしになった」という声をたくさんいただいています。

フォトモザイクアートや活動内容はセンター病院内での掲示や、SNS、YouTubeなどで公開しています。また、年度末の院内表彰で「横浜市立大学附属市民総合医療センター 令和3年度 病院長表彰」もいただくことができ、メンバー一同達成感を感じています。今後もご支援に応えられるよう、新たな取り組みを続けていきたいと思っています。

医学部医学科 5年 山中 百合

キャリア・就職支援の主な取り組み

現在は新型コロナウイルス感染症の影響により、相談対応やイベント開催、インターンシップなど、取り組みの一部をオンラインで実施しています。令和4年度は、対面・オンラインを併用したハイブリッド形式を導入するなど、形式を工夫しながら実施しています。

キャリア相談

専門のキャリア・コンサルタントを配置し、マンツーマンで相談に応じています。学部1年次より利用可能で、希望する進路や将来のキャリア像にあわせて学生の自立をサポートしていきます。また、エントリーシート添削・模擬面接など、就職活動の具体的なアドバイスも行います。



キャリア支援イベント

1年を通して様々な就職・キャリアに関するイベントを開催しています。就活年次生向けの就職対策講座はもちろん、低学年次生向けのキャリアオリエンテーション、公務員講座（有料）、理系学生向けの進路ガイダンスなど、学生の多様なニーズにあわせたイベントを実施しています。

キャリア形成実習



主に低学年次生を対象に、仕事や就職だけでなく、より広い視野で主体的にこれからのキャリアについて考えることを目的とした正課科目です。

●キャリアデザイン

キャリアに関連する様々なテーマ（大学での過ごし方、自分の強み、etc..）を設定し、ディスカッションやグループワークを行います。時には卒業生など、社会で活躍する講師を招き、大学生活の過ごし方について振り返ります。これらを通して、豊かなキャリアを築くために大切な視点や考え方について、皆で一緒に考えていきます。

●ブレ・インターンシップ

インターンシップへ参加する際に求められる素養と力を習得する科目です。ビジネスマナーやコミュニケーションスキルといった多様な人材と協働する力を獲得します。

●横浜の産業と企業理解

横浜市内の大学で学ぶ外国人留学生とともに、横浜にある企業の研究を行います。地域産業の課題解決に向けたグループワークやプレゼンテーション、職場訪問、社員インタビューなどを通じて、横浜で暮らし働く魅力について考えていきます。

就活座談会

平日の昼休み時間（週1程度）に、対面もしくはオンライン形式で実施しています。キャリア支援センターの職員が学生の就職活動の不安や悩みに寄り添うとともに、学生同士の情報交換の場として活用されています。

国内・海外 インターンシップ

民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験をする場を提供しています。（学部1年次生：後期以降対象）

海外インターンシップについては、6ページをご参照ください。

*海外インターンシップでは、学生の海外渡航費用の一部を後援会より助成をいただいている。

キャリアメンター制度

就職活動を終えた学部4年次生／修士2年次生（メンター）が自己的経験をもとに、後輩（学部3年次生／修士1年次生）に対して相談に応じたり、助言をしたりする制度です。



*学生同士の交流を目的として、年に1度開催している「内定者と就活生の集い」の開催費用を後援会より助成をいただいている。

キャリアサポートー制度

卒業生がキャリアサポートーとして在学生のキャリア・就職支援を行う制度です。現在、キャリアサポートーは3,500名以上の登録があり、在学生はキャリア支援センターでサポートー情報を検索し、直接コンタクトをとることができるほか、「キャリアサポートーと学生の集い」と題した交流会を通して、仕事のやりがいや就活のアドバイスを聞くことができます。

*キャリアサポートーと学生の集いの開催費用は後援会より助成をいただいている。

書籍の貸出し

業界・職種研究や筆記試験、面接対策など就職活動に役立つ書籍のほか、キャリア全般に関する書籍、ビジネス誌などを学生に貸出しています。



*書籍の購入費用は一部、後援会より助成をいただいている。

就職支援 パートナーシップ制度

首都圏以外の各地方で就職を希望する学生を支援するため、Jターン・Iターン就職希望地域の協定大学（下記13大学）で求人情報閲覧や就職相談、合同企業説明会への参加などが可能となる制度です。

国際教養大学、福井県立大学、長野県立大学、東京都立大学、都留文科大学、山梨大学、山梨県立大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪公立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、北九州市立大学

入学から卒業までの流れ



※新型コロナウイルス感染拡大の影響などにより、イベントスケジュールなどは変更になる場合があります。

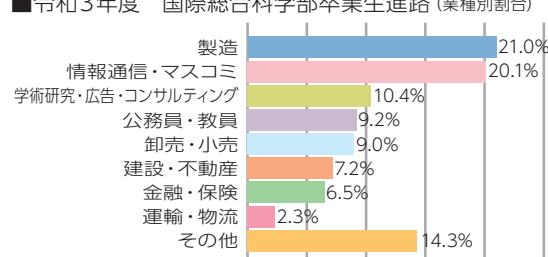
卒業生進路

卒業生の進路は就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得、起業、フリーランスなど多様化が進んでいます。国際総合科学部の国際教養学系、国際都市学系、経営科学系の学生は約9割が就職を希望しています。理学系は6割以上、データサイエンス学部は4割の学生が進学しその9割近くが本学の大学院に進んでいます。

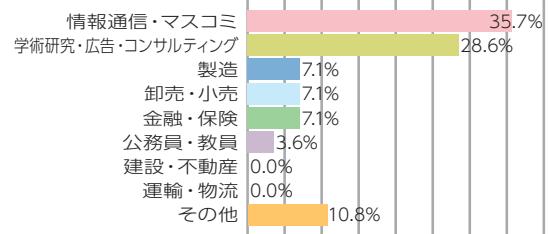
直近の令和3年度では、国際総合科学部およびデータサイエンス学部の就職率は96.7%、全国平均を約1ポイント上回る数値となりました。グローバルに事業展開する民間企業のほか、横浜市役所や横浜銀行など横浜市内で働くことを希望する学生も多くおり、就職後の状況は各企業や機関から高い評価をいただいている。また令和3年度に1期生を輩出したデータサイエンス学部は、情報通信や専門・技術サービス（コンサル）、金融など、幅広い業界で学びの専門性が活かすことができる就職先に進んでいます。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、企業説明会や採用面接はオンラインが主流となりました。学生にとっては移動時間短縮や活動費用の削減に繋がった一方で、職場の雰囲気が確認しづらいなどの声も寄せられました。選考方法については、段階に応じて対面が復活しており、オンラインとの併用型も増加傾向にあります。

■令和3年度 国際総合科学部卒業生進路（業種別割合） (2022年5月1日時点)



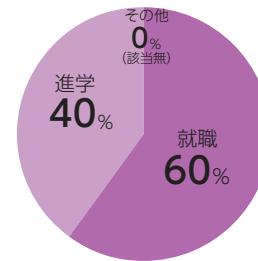
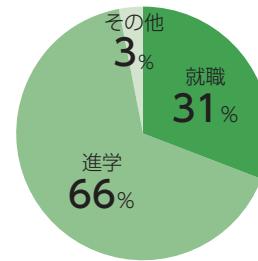
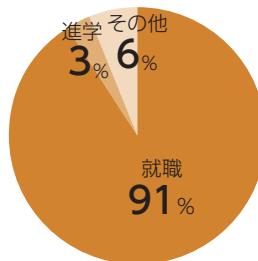
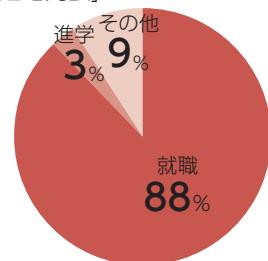
■令和3年度 データサイエンス学部卒業生進路（業種別割合）



■令和3年度国際総合科学部・データサイエンス学部 卒業生就職実績 (2022年5月1日時点)

国際教養学系・国際都市学系		経営科学系		理学系		データサイエンス学部	
就職率	96.0%	就職率	97.6%	就職率	95.7%	就職率	96.6%
進路	就職 進学 その他	進路	就職 進学 その他	進路	就職 進学 その他	進路	就職 進学 その他
人数	266 9 26	人数	246 9 16	人数	45 97 5	人数	28 19 0

[進路内訳]



多様なキャリア支援

～「留学生」×「日本人学生」の学び合い、「学生」×「職員」の対話を通じて～

新型コロナウイルス感染拡大をはじめ、将来の予測が困難な変化の激しい社会情勢下、複雑化するキャリア選択に応じて、多様なキャリア支援を実施しています。「キャリア形成実習（横浜の産業と企業理解）」は本学の特長的なキャリア教育科目で、ダイバーシティの取り組みでもあります。留学生と日本人学生が共に企業の事業課題に対峙し、地元企業の産業発展について理解を深め、自身のキャリアを展望する実践的な授業です。

令和4年度前期集中講義（9月12日～16日）では留学生13名および日本人学生20名が履修し、企業様から提供いただいた事業課題に取り組みました。意見交換やグループワークを重ね、学生視点で「みなとみらいの魅力」を探り、最終日の成果発表では、新たな技術を活用したARバス*や海上ホテルなどの企画提案がなされました。

また、今年度から学生の不安や悩みを聞く新たな企画として「就活座談会」をスタートし、キャリア支援センターの職員により、個別性の高い支援を実施しています。この座談会は学生同士の横のつながりづくりや、学生間の情報交換の場として活用されています。（ご参考） <https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2022/20220901careerdesign.html>



キャリア形成実習（横浜の産業と企業理解）



■2021(令和3)年度国際総合科学部 卒業生の主な就職先・進学先

国際教養学系・国際都市学系

■製造業	大和ハウス工業株式会社	日産トレーディング株式会社	株式会社星野リゾート
いすゞ自動車株式会社	東急リバブル株式会社	阪和興業株式会社	公立大学法人横浜市立大学
カルビー株式会社	東建コーコーポレーション株式会社	株式会社ビーシードボーコーポレーション	■公務員・教員・特殊法人
株式会社キーエンス	独立行政法人都市再生機構	ブックオフグループホールディングス株式会社	神奈川県教育委員会
株式会社資生堂	株式会社長谷工コーポレーション	株式会社マクニカ	神奈川県警察
スズキ株式会社	三菱ケミカルエンジニアリング株式会社	■情報通信業:マスコミ	川崎市役所
トヨタ自動車株式会社	三菱地所レジデンス株式会社	一般社団法人共同通信社	国土交通省
日本電気株式会社(NEC)	■広告・コンサルティング・専門サービス業	株式会社センリン	総務省
株式会社ファンケル	アクセンチュア株式会社	株式会社DNP情報システム	千葉県教育庁
富士通株式会社	アデコ株式会社	株式会社DTS	東京都特別区
株式会社ブルボン	アビームコンサルティング株式会社	東日本電信電話株式会社(NTT 東日本)	東京労働局
株式会社ボーラ	独立行政法人日本貿易振興機構	富士ソフト株式会社	平塚市役所
三井化学株式会社	ビーコンコミュニケーションズ株式会社	楽天グループ株式会社	北海道庁
森永乳業株式会社	株式会社マイナビ	■その他	文部科学省
横浜ゴム株式会社	Retty株式会社	アバホテル株式会社	横浜市教育委員会
レナート株式会社	■商社・卸売・小売業	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)	横浜市役所
■金融・保険業	株式会社赤ちゃん本舗	株式会社共立メンテナンス	■主な進学先(大学院)
アフラック生命保険株式会社	カネヨウ株式会社	独立行政法人国立病院機構	横浜市立大学大学院
かながわ信用金庫	株式会社三栄コーポレーション	TBCグループ株式会社	東京学芸大学大学院
一般社団法人全国地方銀行協会	シナネンホールディングス株式会社	株式会社帝国ホテル	東京大学大学院
東京海上日動火災保険株式会社	株式会社創健社	凸版印刷株式会社	
株式会社横浜銀行	株式会社ソフ	株式会社トライグルーブ	
■建設・不動産業	東京ヤクルト販売株式会社	株式会社パソナ	
JFEエンジニアリング株式会社	株式会社TOKAIホールディングス	東日本旅客鉄道株式会社	

経営科学系

■製造業	株式会社日本政策金融公庫	■商社・卸売・小売業	株式会社住友倉庫
アイリスオーヤマ株式会社	みずほ証券株式会社	アスクル株式会社	株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント
キヤノン株式会社	株式会社三井住友銀行	伊藤忠食品株式会社	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
株式会社クボタ	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	JFE商事株式会社	凸版印刷株式会社
住友重機械工業株式会社	株式会社ゆうちょ銀行	株式会社センシヨーホールディングス	■公務員・教員・特殊法人
住友電気工業株式会社	株式会社横浜銀行	任天堂販売株式会社	茨城県庁
積水化学工業株式会社	横浜信用金庫	株式会社ヤマダホールディングス	神奈川県庁
ちふれホールディングス株式会社	楽天証券株式会社	リコージャパン株式会社	川崎市役所
株式会社ディスコ	■建設・不動産業	株式会社ローソン	国土交通省
日本航空電子工業株式会社	株式会社大林組	■情報通信業:マスコミ	佐世保市役所
日本電気株式会社(NEC)	鹿島建設株式会社	株式会社朝日新聞社	静岡県庁
バナソニック株式会社	株式会社竹中工務店	NTTデータシステム技術株式会社	仙台市役所
日立造船株式会社	日揮ホールディングス株式会社	株式会社オービック	千代田区役所
富士通株式会社	三井不動産リアルティ株式会社	シンプレクス株式会社	東京国税局
富士電機株式会社	横浜新都市センター株式会社	ソフトバンク株式会社	東京消防庁
株式会社ロッテ	■広告・コンサルティング・専門サービス業	TIS株式会社	広島市役所
■金融・保険業	アデコ株式会社	株式会社電通デジタル	■主な進学先(大学院)
アフラック生命保険株式会社	イー・ガーディアン株式会社	日本アイ・ビー・エム株式会社	横浜市立大学大学院
オリックス生命保険株式会社	UUUM株式会社	株式会社ババライナムコエンターテインメント	北海道大学大学院経済学院
かながわ信用金庫	エン・ジャパン株式会社	株式会社日立システムズ	明治大学会計専門職大学院
株式会社かんぽ生命保険	株式会社船井総合研究所	ラクスル株式会社	早稲田大学大学院
第一生命保険株式会社	株式会社マイナビ	楽天グループ株式会社	
株式会社大和証券グループ本社	株式会社マネジメントソリューションズ	■その他	
東洋証券株式会社		四国電力株式会社	

理学系

■製造業	キャップジミニ株式会社(Capgemini Japan)	株式会社日立情報通信エンジニアリング	横浜市立大学大学院
株式会社ACSL	■商社・卸売・小売業	富士通Japan株式会社	岡山大学大学院
株式会社伊藤園	株式会社エース事務機	株式会社ユー・エス・イー	京都大学大学院
株式会社クボタ	興和株式会社	■その他	慶應義塾大学大学院
クラシエフーズ株式会社	株式会社ヤオコー	電気興業株式会社	順天堂大学大学院
大日精化工業株式会社	菱電商事株式会社	東洋埠頭株式会社	総合研究大学院大学
武田薬品工業株式会社	■情報通信業:マスコミ	ライドオンエクスプレスホールディングス	東京医科歯科大学大学院
テイ・エス テック株式会社	NECソリューションイノベータ株式会社	■公務員・教員・特殊法人	東京工業大学大学院
株式会社日立製作所	株式会社くすりの窓口	神奈川県警察	東京大学大学院
丸大食品株式会社	株式会社昭和システムエンジニアリング	国土交通省関東地方整備局	北海道大学水産科学院
山崎製パン株式会社	TIS株式会社	林野庁	
■建設・不動産業	株式会社ディー・エヌ・エー		
深田サルベージ建設株式会社			

データサイエンス学部

■製造業	株式会社インテージヘルスケア	株式会社MonotaRO	■主な進学先(大学院)
株式会社日立製作所	シミック株式会社	■情報通信業:マスコミ	横浜市立大学大学院
富士通株式会社	株式会社大和総研	京セラコミュニケーションシステム株式会社	早稲田大学大学院
■金融・保険業	有限責任監査法人トーマツ	株式会社ジャンプコーポレーション	
SMBC日興証券株式会社	株式会社野村総合研究所	株式会社電通デジタル	
株式会社横浜銀行	株式会社マイナビ	株式会社ブイキューブ	
■広告・コンサルティング・専門サービス業	■商社・卸売・小売業	■公務員・教員・特殊法人	
アクセンチュア株式会社	キャノンマーケティングジャパン株式会社	小田原市役所	

横浜市立大学後援会会則

(名称)

第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を横浜市立大学金沢八景キャンパス内に置く。

(目的)

第3条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業及び学生生活の支援等を行うことを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条に定める目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への支援
- (2) 学生の学業、課外活動及び福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員)

第5条 本会は、次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上及び医学研究科を除く。）の保護者又は学生本人（以下「1号会員」という。）
- (2) 横浜市立大学の教職員及びその退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という。）
- (3) その他本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という。）

(役員の設置)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 15名以上20名以内
- (2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。

3 理事のうち2名を業務執行理事とする。

(役職者の選出)

第7条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、業務執行理事は、理事の互選により選出する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(役員の任務)

第9条 役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 業務執行理事は、本会の業務を処理する。
- (4) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。

(顧問)

第10条 本会は、横浜市立大学との連携を密にするため、顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

3 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

(職員)

第11条 本会の事務を処理するために、事務局に職員を置く。

2 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第12条 本会の会議は、総会及び理事会とする。

2 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。

(総会の決議事項)

第13条 総会は、年1回開催し、次の事項について決議する。

- (1) 役員の選任

(2) 事業報告及び決算の承認

(3) 会則の改正

(4) その他本会の運営に関し必要と認められる事項

2 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(理事会)

第14条 理事会は、理事全員をもって構成する。

2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる。

(理事会の決議事項)

第15条 理事会は、事業計画、予算、決算及びその他本会の運営に必要な事項について決議する。

2 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。

ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

3 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。

(会費)

第17条 本会の1号会員は、入学時に会費を納入することとし、既納の会費は返還しない。

2 会費の額は、次のとおりとする。

(1) 学部においては学生1名につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）

(2) 大学院博士前期課程及び博士後期課程においては院生1名につき30,000円（ただし、博士前期課程から博士後期課程に進学した者にあっては20,000円）

3 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、隨時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会則の改正)

第19条 この会則の改正は、総会で行う。

2 改正を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

附則

本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

本会則は、平成22年6月26日から施行する。

附則

本会則は、平成26年7月5日から施行する。

附則

本会則は、平成29年7月1日から施行する。

附則

本会則は、令和元年7月6日から施行する。

附則

本会則は、令和3年8月10日から施行する。

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内

TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp

[Http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/](http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/)

